

16. ドアクローザの機能について

ドアクローザとは、住宅用ドアでは一般的に内側上部に付き、ドア側についている箱のような本体部と本体とドア枠をつなぐアーム部で構成された部品です。この部品は、開けたドアをゆっくり、静かに閉めるための装置で、内部に密封された油の圧力により閉じる構造になっています。また、通過中の人や物がドアに挟まれないよう、閉まってきたドアを人の力で開けられるようになっています。

また、ドアを一定の角度で開いた状態で一時的に止める機構が付いたドアクローザもありますが、止まった状態でロックする機構にはなっていないので、風などにより保持力の限界を超える力がかかるとドアは閉まります。

従って、ドアを開閉する際に強風が吹いていたり、窓などの開閉によって屋内を通る突風が発生するなど、ドアに強い力が加わった場合は、ドアが急に開いたり閉まったりすることがありますので、強風時などにドアを開閉する時は、ハンドルをしっかりと持ち、ドアと枠の間に手などが挟まれないよう注意して開閉してください。

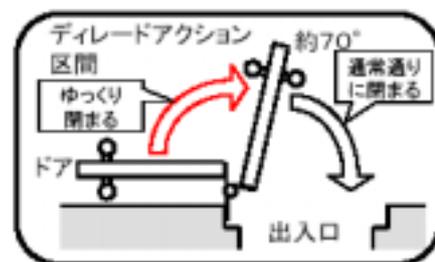
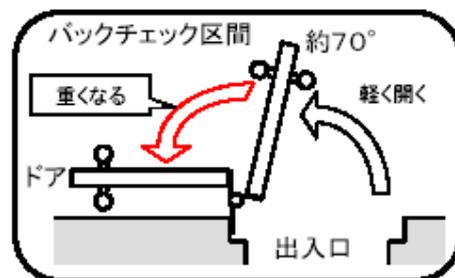
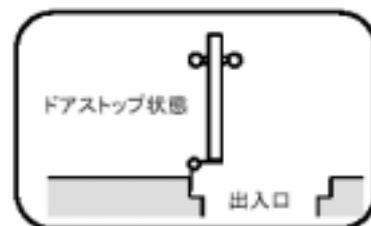
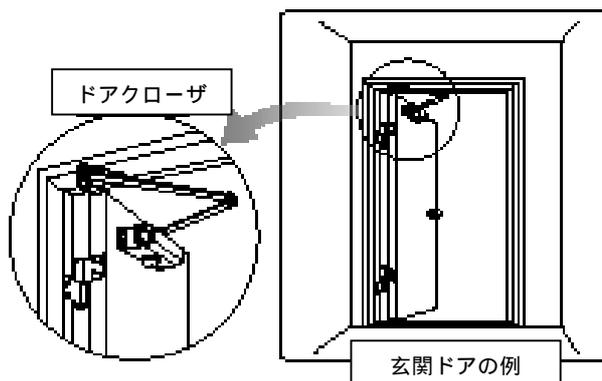
その他、バックチェック機能といい、約70°から油圧が働いて、急激にドアが開くことを押さえる機能が付いたものがあります。バックチェック機能が付いている場合、70°以上ドアを開けるときの多少重くなりますが、故障ではありませんのでゆっくり開けてください。

また、ディレードアクション機能といい、約70°までゆっくり閉まり、高齢者、お身体の不自由な方、荷物を搬入する際の出入りに配慮した機能が付いたものがあります。ディレードアクション機能が働いている区間で閉じかけているドアを閉じる方向に強く押ししたり引いたりしないでください。

なお、ドアを繰り返し開閉することでドアクローザを取り付けているねじがゆるみ、ドアが円滑に開閉しなくなることがありますので、ドアクローザを取り付けているねじがゆるんだときには、ねじを締め直してください。

また、季節の温度変化により内部に密封された油の粘性が変化し、温度が高くなる夏場にはドアの閉じる速度が速くなることもあり、極端に速度が速くなるとけがをすることがありますのでご注意ください。

ドアの閉じる速度は、速度調整弁により調整することができますので、メーカーで用意している取扱説明書の「調整方法」を参考に調整してください。また、ディレードアクション機能の有無にかかわらず、閉じかけているドアを閉じる方向に強く押ししたり引いたりしないでくだ



さい。強制的にドアを閉めることにより、内部の油が漏れたり、ドアを閉める速度の調整ができなくなる原因になります。

ドアクローザ本体から油が漏れたり、部品が破損した場合、放置しておくとは閉扉速度の調整が効かなくなり事故につながるおそれがありますので、速やかに建築会社様、工務店様または販売店様に修理、交換依頼をしてください。